「平成30年度『学びのスタンダード』推進事業」の推進地域の取組

パイロット校名	相馬市立中村第二中学校 ， 相馬市立中村第二小学校
推進協力校名	

＜中村第二中学校＞

教員の授業力向上と授業の質的改善を目指して

課題の解決に向けて，自分で考え取り組む生徒や，考えが相手にうまく伝わるように，資料や文章，話の組立てなどを工夫して発表する生徒の割合が高くなってきたが，生徒間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると感じている生徒の割合が低い。そこで今年度，「授業スタンダード」における主体的・対話的で深い学びを各教科においてさらに実践し，研究のテーマを「『授業スタンダード』を活用した授業スタイルの確立と学び合い形態の工夫」として取り組んだ。

1 パイロット校の取組内容

国語科	教師A	教師B	
1年	○	○	
2年	○		
3年		○	

数学科	教師A	教師B	教師C
1年	○		○
2年	○	○	
3年		○	○

（1） タテ持ちや教科担任制の具体的な取組について

今年度，国語科・数学科において教科のタテ持ちを実施。指導方法の情報交換や授業進度を合わせた共通理解と共通実践を行い，３年間の関連性を意識した指導をすることで授業改善へつなげる。

（2） 「授業スタンダード」の活用について

① わかる喜びを実感させ，見通しをもって粘り強く取り組ませる展開の工夫。
② 体験的・問題解決的な学習を積極的に取り入れ，自己の考えを広げ深めるような授業スタイルの工夫。
③ 問題点を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることができるコーディネートの工夫。

『重点実践事項として』

- 興味関心を高める問題提示の工夫（身近な事象に疑問を持たせる課題提示）
- 本時の学習の目的を明確にした学習課題の設定（何を学習するのか）
- 学び合い形態の工夫（自らの考えを持たせる場と学び合いや話合い活動の設定）
- まとめの時間の確保（何を学習したか・どのように学習したか）
- 授業と家庭との連携（学習サイクル・学びの連続性）

（3） 学習スタイルの確立に向けて

① 学習の目的や心構え，各教科における学習のねらいや授業の受け方等をまとめた「学習の手引き」の作成と，家庭学習の約束ごとや進め方等をまとめた「中村二中版家庭学習スタンダード」の作成
② 宿題確認ボードの活用（計画的に学習を進めるため）

（4） 教員同士の学び合いについて

① 互見授業の計画と推進
② ワークショップ型事後研究会の実施(時系列シートを用いた協議・授業改善シートによる振り返り・授業スタンダードチェックシートの活用)
③ 推進地域授業研究会の実施

＜中村第二小学校＞

「問い」を生かした授業づくりと教師のコーディネート力の向上

学びのスタンダード１年次の研究では，「問いや思いを引き出す学習課題の提示の工夫」を研究テーマとし，児童の主体的な学びによる問題解決学習を推進してきたことにより，考える楽しさを実感し，最後まで課題意識や追究意識をもって授業に取り組めるようになった。一方，個々の考えを広げ深める学びまで到達していなかったという点が課題として挙げられた。２年次の研究では，「問いを連続させるための教師のコーディネートの工夫」を研究テーマとし，書く活動や対話的な学習を通して子どもたちが表出した数学的な見方や考え方を見取りながら，新たな「問い」を価値付け，考えを広げ深めていくことで理解を確実なものにしていくことをねらいとして実践を行ってきた。

（１） 指導体制について

	１組	２組	３組	ＴＴ体制
６年	全時数	全時数		校長(T2)
５年	２／３時数	２／３時数	２／３時数	校長(T2)担任(T2)

小学校５・６年の算数科を教科担任制とし，６年は全時数，５年は全体の２／３時数程度を持ち時数とした。また，校長や学級担任もＴＴとして授業に入り，児童の個別指導に当たった。

（２） 算数ルームの活用について

特別教室を算数ルームとして位置付けた。教室内には電子黒板や書画カメラ，タブレットなどのＩＣＴ機器や算数的活動で使用する教具，発表ボードを常備しておき，いつでも授業の中で活用できる環境を整えた。また，算数ルームは教員が自由に参観できる場として提供し，推進教師の授業を参観し，意見交流し合うことで授業改善，指導力向上を図っている。

（３） 推進教師の役割について

① 「学びのスタンダード」推進のための研究　② 学力向上案の策定
③ 範例授業の実施　④ 児童の実態把握アンケート及び教職員アンケートの集計
⑤ 小・中の連絡･調整　⑥ 学びのスタンダード通信の発行

（４） 「授業スタンダード」との関連を位置付けた授業実践

◇ 研究テーマ（２年次）
「子どもの問いを引き出し，問いを連続させるための教師のコーディネートの工夫」

○ 新たな問いを生み出す魅力ある教材の工夫
- 課題と出合ったときに生まれる「問い」から，「解決したい，考えてみたい」という知的欲求をもたせる。「～かな？」「～したい」
- 子どもの興味を算数の本質につなげる。教材の中に潜む数理的な事象へ目が向くようにする。

〈教材提示の工夫〉
- 資料を少しずつ見せる。　→　先を予想するワクワク感
- 既習から未習へ移る。　→　できる・できる・あれ？
- 複数の資料を比較させる。　→　違いや変化を問う
- 条件を加えて負荷を与える。　→　解決への意欲を高める。
- 生活経験から課題を見つける。　→　生活に活用する力をつける。

○ 「問い」を引き出し，「問い」を連続させる教師のコーディネートの工夫。
① 思考が見えるノートづくり。「書く活動」を授業に位置付け，自分の考えを明確にさせる。さらに，友だちの考えと比較することで思考を深めるようにする。
② ペアやグループによる対話的な学び合いを通して，話合いの論点を明確化し，考えを広げ深める。
③ 友だちの考えを生かしながら「予想」「再生」「要約」「換言」を大切にした話合い活動を充実させる。（視点：考えの共有化・吟味，思考の整理）
④ 多様な考えを比較検討し，その中にある矛盾に焦点を当てることで自分の考えを見つめ直し，新たな問いをつくる。（視点：数学的な見方・考え方）

〈新たな問いを生み出す教師の問いかけ〉

- 「～なのに，～なのはどうしてですか」という問いかけで考えを揺さぶる。
- 「あれ？」「どうして？」という矛盾やズレで心を揺さぶり，自分の考えを見つめ直し，新たな問いに向かわせる。
- 「もし～なら」という新たなきまりを帰納的に考えさせる。
- 「正確に，速く，簡単，いつでも」の観点で考えさせる。

2 成果と次年度へ向けて

＜中村第二中学校＞

○ 課題解決に向けて自らの考えを持ち，主体的に取り組む姿勢が向上した。
○ 目的を明確にした話合いから，対話的な学びが定着してきた。
○ タテ持ち体制により，共通した教え方や指導方法の確認ができ，授業改善につながった。
○ 家庭での学習や生活習慣の改善にむけて意識が高まった。

＜中村第二小学校＞

○ 研究テーマに沿った指導上の手立てを教職員で共有化することができた。
○ 問いの連続性をもたせる授業構成の工夫をしたことで，導入から終末まで主体的な学びができた。
○ 「つまり」「例えば」「もし」などの言葉で，考えをつなぐことを教師が意識したため，児童も使うようになり，理解を深めることができた。
○ ズレや誤答により生まれた問いから，自分と友だちの考えを比較することで，新たな問いを見出すことができた。

次年度へ向けて

● 自己の変容を認識させ，さらなる学習意欲や新たな課題につなげるための「振り返り」の充実 → 学びの過程や結果を将来につなげる。
● 家庭学習を充実させるための授業との連携のあり方。
● 個々の児童生徒の実態把握。
● 担任と教科担任との共通の指導観の持ち方。
● 時間割の組み方の工夫。
● ペアやグループ活動のねらいと効果を明確にした授業のコーディネート。
● 児童生徒が思いや考えをうまく伝えられるように，言語活動（書く・説明する）を通した表現力の向上。
● 子どもの思考の見取り･判断･価値付けを重視した教師の授業力の向上。